

建物配置・規模・建て替え手順

世田谷キャンパスで修学する学生に対する授業は工事期間中も同キャンパスで行うことを前提とし、在学期間を仮設校舎だけで過ごすことがないように配慮するなど、学生の負担を最小限に抑えて整備します。

学園の運営を継続しながら建て替えを進めるため、3つのフェーズに分けて段階的に整備していきます。

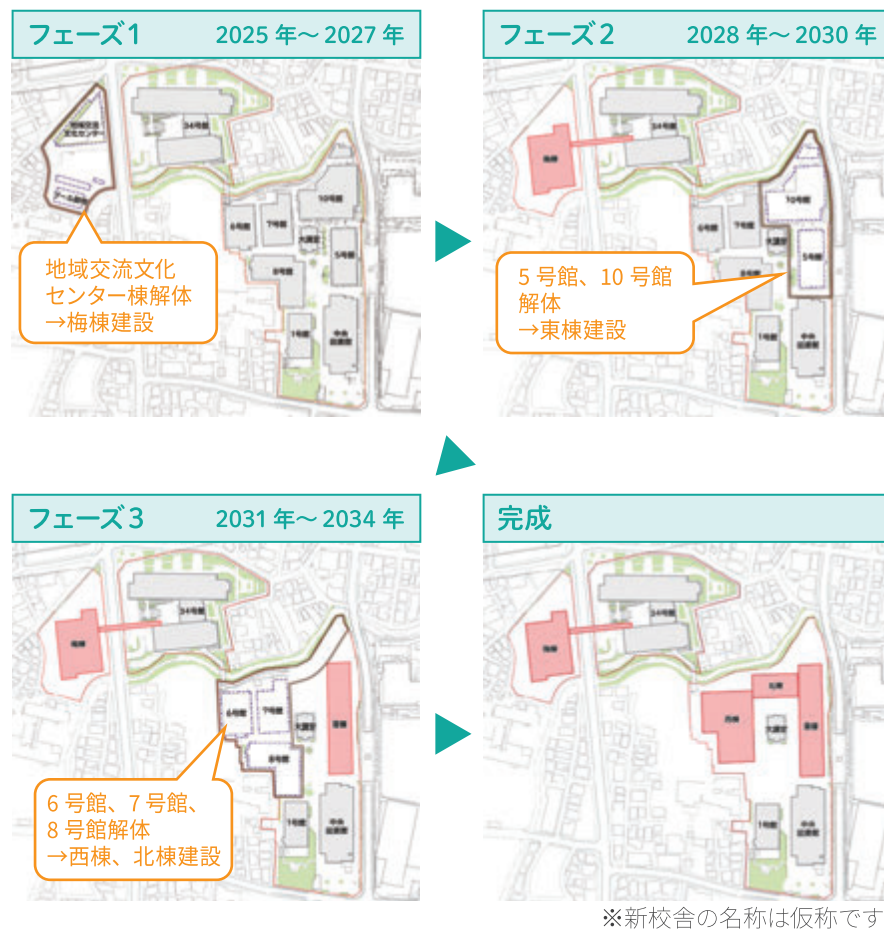
梅ヶ丘側のプール跡地、地域交流文化センター用地等を活用して新棟（梅棟）を新たに整備し、全体として現状と同程度の床面積を確保しながら、建て詰まりを解消し、ゆとりあるキャンパスを整備します。

現状 世田谷キャンパス全体：約 109,000 m²
 〈建て替え対象建物延べ床面積〉 (単位：m²)

5号館	6号館	7号館	8号館	10号館	地域交流文化センター棟
4,306	4,644	5,778	8,200	11,111	1,170
合計 35,209					

計画 世田谷キャンパス全体：約 108,000 ~ 約 113,000 m²
 〈計画延べ床面積〉 (単位：m²)

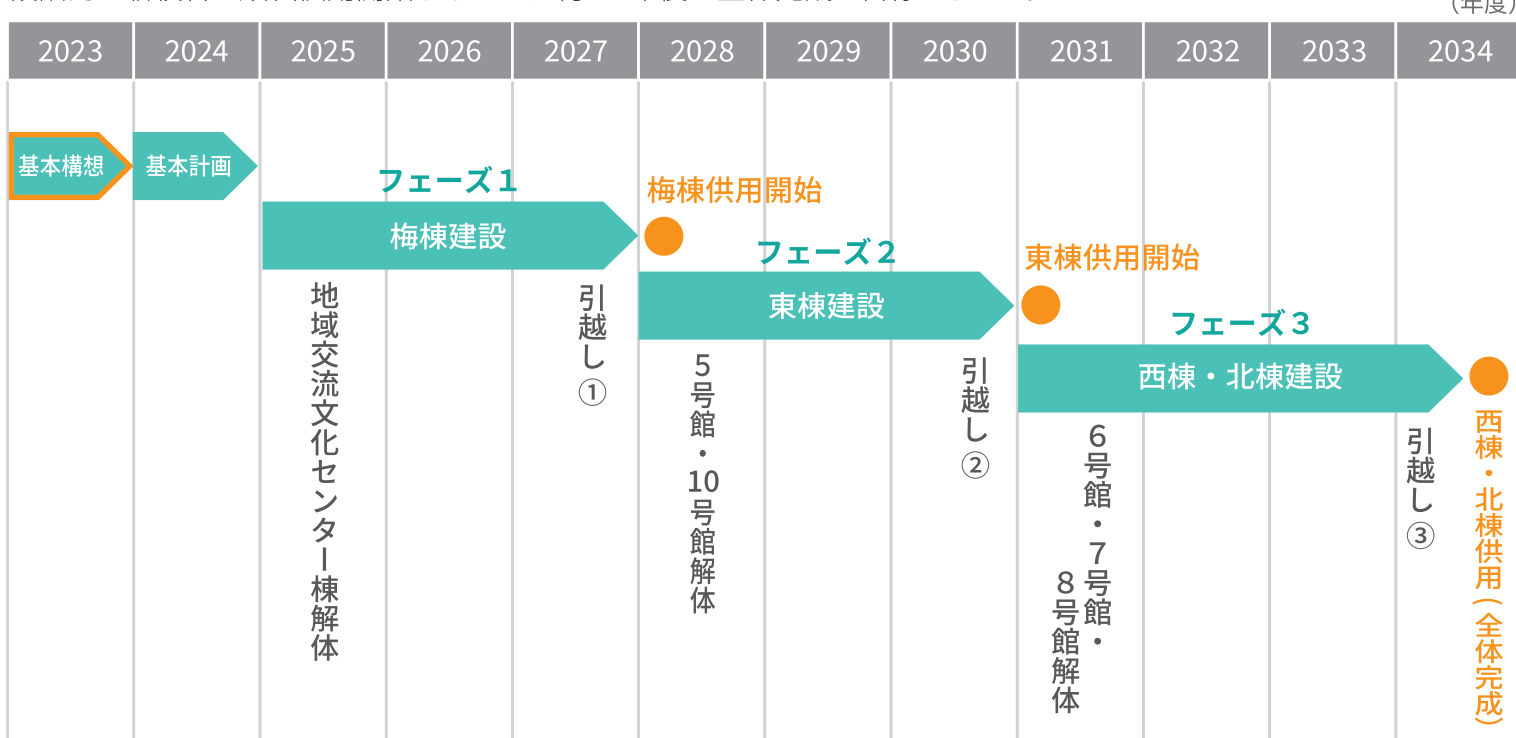
梅棟	西棟	北棟	東棟
約 9,500	約 10,000 ~ 12,000	約 2,500 ~ 3,000	約 12,000 ~ 15,000
合計 約 34,000 ~ 約 39,000			



※新校舎の名称は仮称です。

目標とする事業スケジュール

段階的に新校舎を順次供用開始しながら、約 10 年後の全体完成を目標とします。



※スケジュールは現時点の想定であり、今後変更の可能性があります。

国土館キャンパス環境整備事業

基本構想

国土館大学 世田谷キャンパスの再整備を計画しています！

整備事業のコンセプト・方針



(国土館トランスフォーメーション)

次世代のリーディングキャンパス

近年の急速な社会変革に伴い、トランスフォーメーション（変革）や交差・横断など掛け合わせる意味を持つ“X”を用いて、DX（Digital Transformation）などの変革が推進されています。国土館大学世田谷キャンパス再整備事業では、「国土館の教育理念 × 先駆的なキャンパス環境の整備 = “KX” = 国土館トランスフォーメーション」をコンセプトに、地域社会に貢献する心身ともに健やかな人材“国土”を輩出するための次世代をリードする教育環境を整備します。



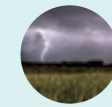
学生ファーストキャンパス

- ✓ 学生の居場所（コモンズ）の積極的創造
- ✓ アクティブラーニングに対応した環境づくり
- ✓ キャンパスアメニティ（快適性・利便性）の向上



スマートキャンパス

- ✓ 様々な学びを支える先端 ICT 教育環境の導入
- ✓ 充実したキャンパスライフを支える ICT 活用
- ✓ 地域を守り、共生する防犯・防災 DX



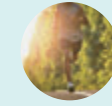
防災キャンパス

- ✓ 地域の防災拠点機能の確保
- ✓ 災害に強い構造と、災害時に自立できる機能の確保
- ✓ フェーズフリーの施設利用



サステナブルキャンパス

- ✓ 省エネ対策等によるキャンパスの脱炭素化の推進
- ✓ 緑豊かな環境整備による良好な学修環境の創出
- ✓ 資源循環による環境負荷の低減



ヘルシーキャンパス

- ✓ スポーツの機会が身近にあるキャンパスづくり
- ✓ 緑豊かな憩いの空間の創造
- ✓ 健康的な食事の提供



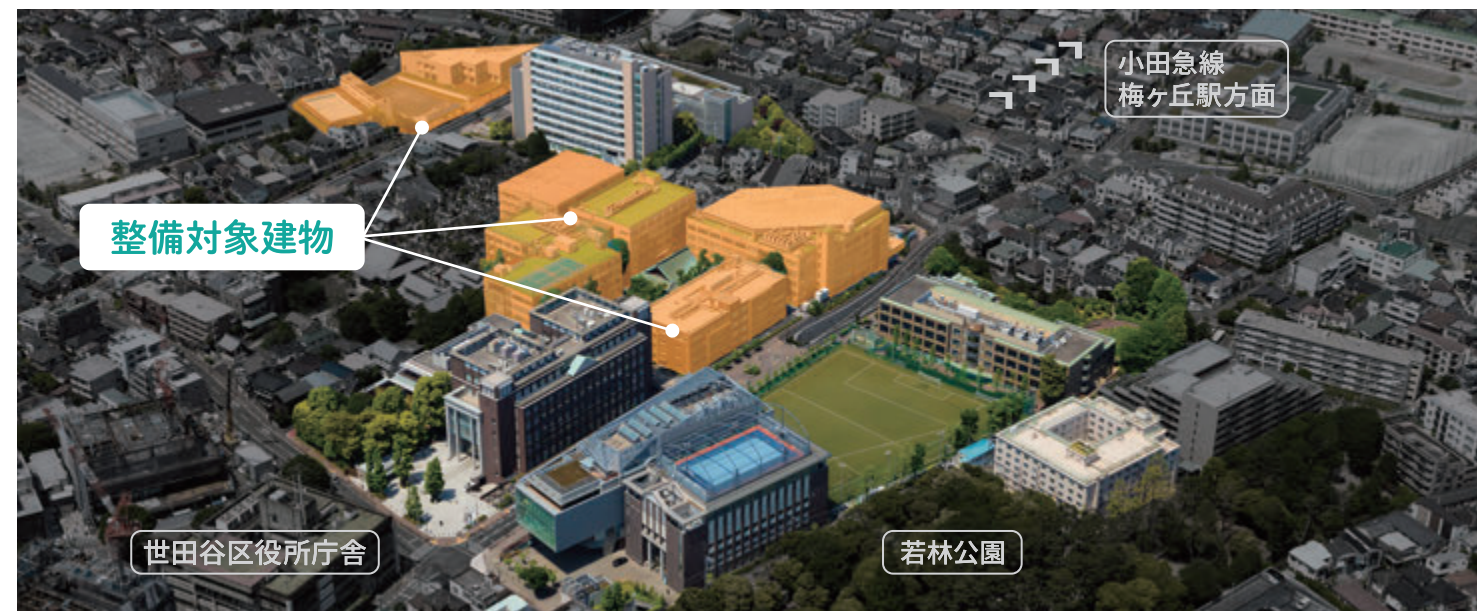
地域連携・社会協創キャンパス

- ✓ 社会連携・地域交流を促進する仕掛けの導入
- ✓ 産官学連携を促進する環境づくり
- ✓ 国土館の広報・インフォメーション機能の導入



インクルーシブデザインキャンパス

- ✓ 多様な人材を受け入れられる環境づくり
- ✓ 外国人留学生・教員が当たり前活動できる環境の整備
- ✓ 創造的な対話プロセスに基づくキャンパスづくり



本学は、『学校法人国土館 第2次中長期事業計画』に掲げるキャンパス整備を推進するため、令和4年10月に「国土館キャンパス環境整備計画推進プロジェクト会議」及び「国土館キャンパス環境整備計画推進室」を設置し、既存建物で竣工から50年を経過している世田谷キャンパス校舎の建て替えを中心としたキャンパス再整備の本格的な検討を行っています。検討にあたっては、本プロジェクト会議に作業部会を設け、多様な観点から具体化に向け作業を進めています。令和5年6月からは基本構想の策定に着手し、このたび本整備計画の基本的な考え方や方針を示した基本構想を策定しました。

時代の要請に応える有為な人材輩出は本学の社会的使命であり、激しい社会環境の変化を的確に捉えた教育環境の整備が急務となっています。世田谷キャンパスを中心とした総合的・統合的な再整備によって、学問の発展に対応した教育研究活動の展開を可能にする最適な環境を整備するとともに、学生を中心にあらゆる人々が健康的で居心地よく快適に過ごすことができる学修環境を整え、社会の負託に応え得る「場」の創出を目指します。さらに、環境に配慮し持続可能な社会の実現に寄与しつつ、

地域社会・企業などとの交流機会（産官学連携）を促進し、「生きた学び」の場とすることを目指します。

また、当キャンパスは世田谷区行政の中心に位置し、周辺には吉田松陰を祀る松陰神社、井伊大老が眠る豪徳寺、世田谷城址など優れた歴史的環境下にあり、自治体などとの良好な関係を保ちつつ意思疎通を図り、景観や眺望、防災拠点として一体の地域計画となるよう配慮して再整備するとともに、生涯学習の場・機会を通じて国土館の教育・研究資源を還元し得る環境促進を目指します。

整備にあたっては、本学にある歴史的空間・建造物の保全と国土館の理念の継承に取り組み、国登録有形文化財であり国土館建学の精神を表徴する「国土館大講堂」などによって醸成される象徴性を継承しながらも、次世代のニーズを満たす施設や空間を歴史の濃淡に沿って構築し、「過去・現在・未来にわたる一貫した国土館の理念」を創出します。

本学の伝統を継承しつつ、次世代をリードする総合的な知の拠点を創出することを趣旨とする本整備事業は、本基本構想に基づいて基本計画の策定に着手し、着工・完成に向けて更なる検討を進めてまいります。



本学が目指す人材育成

建学の精神

「国を思い、世のため、人のために
尽くせる人材『国土』の養成」

- ・社会を支え、次世代をリードする人材輩出のための経営基盤の保持

学生の環境

- ・少子化による18歳人口の激減・大学選びの激化
- ・大学に求める価値観の変化
- ・高等教育のグローバル化
- ・オンライン授業やAI技術等の普及に伴うICT・デジタル教育の必要

社会の動向

- ・頻発する大規模災害への対応
- ・地域・社会との緊密な関係づくりの重要性の増大
- ・持続可能な開発に向けた環境配慮型社会の推進
- ・様々な背景を持った人々を受け入れる多様性への対応
- ・コロナ禍を経た健康に対する関心の増加

再整備イメージ

世田谷キャンパス 全体再整備イメージ



校舎内のイメージ



創造・交流機会の創出

- ・コモンズスペースをさまざまなかたちで設け、学びや研究分野を横断的に創造する場を創出
- ・交流機会を促すための学生食堂・カフェ機能の導入により、地域に開かれた交流の場を創出



マルチファンクション

- ・あらゆる空間を最大限に活用できるマルチファンクション（多機能）を用いた最適な学修環境を創出



梅ヶ丘校舎のイメージ



大講堂周辺のイメージ

※再整備イメージは現時点で想定されるイメージを表したものであり、決定したものではありません。